全社をあげて環境問題に取り組み 職員ボランティア意識の基盤形成

「健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する」という経営理念のもと、環境保全をCSRの根幹と位置づけてきた。ご自身もゴミ拾いや植林活動などに関わってきた山浦さんは、環境活動に対する八十二銀行の気運の高まりについてこう話す。

「前の前の頭取が地球環境への危機感が強い人で、（社）長野県環境保全協会を作ったんです。協会は県の温暖化防止活動推進センターの運営を受託し、私どもの取引先の企業にも会員になってもらって啓発活動をしています。この協会の活動への支援のほか、諏訪湖・天竜川などの清掃・浄化、植樹、ゴミ拾いなど、地域のボランティア活動にも積極的に参加しています。またKids'ISO14000プログラムという子供のための国際的な環境教育プログラムを当行職員の子供と県内の小学校の児童に提供しています。子供たちの意識を改善し、子供たちが家庭のリーダーとなって省エネに取り組んでもらっています」

環境保全に取り組む顧客には融資など銀行業務での支援を行ない、「エコロジーバンク82」の標榜も定着。環境大臣賞など数々の受賞は、社会からも高く評価された証といえるだろう。

地域のイベントには力を惜しまない

平成10年長野冬季オリンピックでも八十二銀行は大きな力を発揮した。銀行から延べ2000人のボランティアが出向き、NAOC組織委員会に常時3～4人が、常駐していたのである。

「県をあげての大イベントですから、それは県の次に一生懸命でした。出向社員は前半と後半に分けて交代で出向させました。7年も行きっぱなしだと銀行の仕事を忘れちゃうといけませんから（笑）。その後パラリンピックがあって、一昨年はスペシャルオリンピックスがありました。こういうイベントには当然のこととして協力を惜しみません」

長野オリンピックがきっかけで「八十二